

# 入曽地区中学校統廃合検討協議会 学区部会第4回会議録

- ・開催日時 平成24年11月21日（水） 午後7時～午後9時5分
- ・開催場所 入曽公民館3階第2学習室
- ・出席者 16名 ※欠席者4名
- ・事務局 生涯学習部長 次長兼教育総務課長 学校統廃合担当課長 同担当主任  
学校教育部参事兼教育指導課長
- ・傍聴者 10名

## 【会議内容】

### 1 開 会

### 2 部会長あいさつ

### 3 議 事

#### （1）統廃合に伴う学区の見直しについて

（議長）先日は、通学路の実地調査にお忙しい中ご協力いただき、ありがとうございます。それでは、実地調査の報告を事務局からお願いします。

（事務局）—— 配付資料説明（略） ——

（委員）入間中 PTA では、通学路に関して保護者からメールでお寄せいただいた意見をまとめてまいりましたので、ここでお配りさせていただきたいと思います。

保護者の意見にもありますが、朝の時間帯だけでなく、下校の時間帯にも、委員の皆さんに歩いていただきたいと私たちとしては考えています。やはり入間野中についても、交通規制されていない下校時も確認する必要があると思います。

（事務局）事務局としては、下校時の調査は、学区を決めたうえで実施したい

と考えておりました。

(委員) 前回の会議で、下校の時間帯に歩くことも必要かもしれないといったお話が議長さんからあったと思うのですが…。

(委員) 必要があれば自転車での調査もというお話もあったと思うのですが…。

(議長) いま調査が必要ですか。

(委員) はい、そう思っています。

(議長) まずは学区を決めて、その後に、そういった部分の確認をしていきたいと思うのですが…。

(委員) 学区を決める判断材料の一つとして、通学路の視点は大事だと思います。暗くなる時間帯を見ずに決めてしまっているのでしょうか。

(議長) 学区が決まらないと、より具体的な実地検証はできないと思うのですが、他の委員の皆さんはどう思われますか。

(委員) 学区を決めた後でいいと思います。下校時に行く場合は、暗くなる冬場に実施した方がいいと思いますが…。

(委員) いくつも通学路があるならまだしも、山王中か入間野中かの二つだけです。入間中の保護者にとって安全な通学路の確保は大事なことです。雨の日は、側溝が見えなくなるくらい水が溜まる時もありますし、やはり私たちは委員としての責任がありますので、もっとしっかり調査すべきだと思います。

(委員) 山王中か入間野中かを定める判断材料として、通学路の視点は大きなウェイトを占めていると思います。ですから、学区を決めてからではなく、実際にもっと歩いたうえで学区を決める必要があると思っています。

皆さんは、何を判断材料にして学区を決めようと考えているのでしょうか。下校時なども含め、責任のある委員の皆さんに、もっと歩いて

いただく必要があると思うのですが…。

(委員) 山王中にするか入間野中にするか、大筋は大体決まっているのではないのですか…。そういう話では、いつまで経っても決まらないですよ。

なんか、いつも入間中の PTA の人たちが話すばかりで、この会議一体何なのだろうって、前から思っているのですが…。

(委員) 話は変わりますが、前回の会議で、御狩場小区域の入間野中の生徒に関して、統合になっても在校生については卒業まで入間野中にいられるようにするといった話がありましたが、入間野中がキャパ的に問題なければ、そういった形がとれると考えていいですか。

(事務局) はい、可能な限り柔軟に対応したいと考えています。

(委員) 35 人学級の話もありますよね。

(事務局) 財源の問題もありますので、文部科学省から 35 人学級の計画は出ていますが、決まったということではありません。導入された場合でも、一学年ずつ段階的に実施されます。

(議長) 話を戻しますが、入間中の PTA としては、さらに調査をしてみないと学区は決められないとのことですが、これについてはどういたしましょうか。

(事務局) 今回調査した箇所は、現に中学生が利用している通学路でもありますし、下校時などの調査は、学区を決めてから行いたいと事務局としては考えています。

(委員) でも、例えば山王中で考えた場合、入間中学区の生徒は山王中学区の生徒より通学時間が倍かかるわけです。4 時半下校の場合、山王中学区の生徒は 5 時で帰れても、入間中学区の生徒は 5 時半になってしまいます。30 分違うだけで、周りの暗さは、かなり違ってくると思うのですが…。

(議長) 校長先生は、学校から一番遠い所に住んでいる生徒を考慮したうえ

で下校時刻を決めていると思うのですが…。

(事務局) 下校時刻は、基本的に真っ暗になる前に子どもが家に帰れるように設定しています。学区が大きくなれば、それに応じた下校時刻が設定されることになると思います。

(委員) 一番遠い子のことを勘案して考えていかなければなりませんから、それには、まずは学区を決めないといけないですよね。

(委員) その意見に賛成です。

(議長) まずは学区を決めるということによろしいですかね。

(委員) 学区に関してですが、御狩場小の保護者の間では、みんな同じ中学校に通えるようになればいいねといった声は多いです。それと、すでに中学に通っている生徒を移動させるのは可哀そうといった意見も多いのですが、中には学校を移りたいという生徒もいるかもしれないので、そのあたりは自由に選択できるようにしてもらえればと思っています。現状の案では、兄弟姉妹が別々の中学に行かざるを得ないケースも考えられますが、そういったことは避けたいといった意見も多いです。

(議長) そういったことも今後話し合う必要があると思います。  
とりあえず、まずは学区を決めるということによろしいですか。

(委員) 私たち入間中は必死に考えています。自分たちが納得したうえで決めたいし、そのうえで子ども達にも説明したいわけです。それを、入間中の PTA がいろいろ言うから会議が進まないとか、そういう形で私たちの意見が封じられるのであれば、何のために私たちはいるのですか？

(議長) 皆それぞれの立場で必死に考えて意見を言っているわけですから、その点は理解していただきたいと思います。

(委員) でも、私たち入間中の PTA がいるから会議が進まないなんて言われたら、どういう顔をして会議に参加したらいいのですか。

(議長) なるべく意見は吸い上げていきたいと思っています。ただ、やはり会議を前に進めてほしいというお考えの方もいるわけです。

(委員) では、入間中の PTA が喋ってばかりと言われてしまったので、他の皆さんのご意見をお伺いしたいと思うのですが…。

(議長) 他の皆さんは如何でしょうか。

(委員) 例えば④案になった場合、統合の時点で入間中に通っている生徒については、一緒に中学に行けるように学校を選べるような形にしてもいいのかなって思います。

(事務局) 選択制の要望があれば、可能な限り前向きに考えていきたいと思っています。

(議長) 他にご意見はありますか。

(委員) 私は入間野小で受け入れ側ですので、入間中の廃校に対して賛成や反対の意見を申し上げる立場ではありません。あくまで学区に関する議論においてのみ発言させていただきたいと思っています。

(委員) 今いる子ども達が悲しい思いをしないような形で進めばいいですね。

(委員) 部活や受験のことがありますから、在校生が動かされるのは可哀そうな気はします。やはり卒業するまでは入間中にというのは無理ですかね…。

(議長) 変わることに對する心配事は多々あると思いますが、そういったことへの対策は当然立てられていくものと思います。この統廃合は、入曽地区 3 校だけの問題ではなく、市全体の問題として考えていくべきものですし、そういう方向で事務局にも努力してもらわなければなりません。もちろん、大人の都合で子ども達の学校が変わるということではなく、子ども達のことを一番に考えて進めていくのが大事なことだと思います。

(委員) この学区部会でどうしても結論が出なければ、検討協議会に戻すというのも、ありかなとは思いますが。

(委員) 通学路が遠くなって心配だという入間中さんの気持ちはよくわかります。うちはフラワーヒルで、普段は自転車で山王中に通っていますが、雪の日は歩いて通っていますので大変です。先ほど兄弟姉妹の話がありましたが、なるべく柔軟な学区編成ができればいいと思っています。

(議長) 雪の日は登校時間を遅らせる措置をとることもありますし、子ども達に十分配慮した形になっていると思います。

(委員) うちの子どもは南小の 5 年生ですが、個人的には行く学校と統合の年度を早くはつきりさせてもらいたいというのはあります。細かい実地調査は学区を決めてからでいいと思いますし、中学生にもなれば、それなりに危険を回避する知恵もありますので…。

(委員) どんなに遅くとも平成 28 年には統廃合するわけですし、それまでの間に決めなければならない事はたくさんあると思います。ですから、やはり先に学区を決めて、それから危険箇所を洗い出して対策を立てていく形の方がいいと思います。

個人的には、南小の子ども達が別れないような学区にしてもらいと思っています。入間小の統廃合のことを考えれば、みんなで入間野中に行ければいいと思っています。

(委員) 入間中の在校生については卒業するまでいられるということに関しては、どうなのでしょう。

(事務局) 入間中が 2 年生と 3 年生だけで、1 年生がいないというのは、学校運営の観点から現実的ではないと考えています。

(委員) 現実的ではないということは事務局の方が思っているだけのことであって、全国的にも統廃合の事例はあると思いますが、他の市ではどのようにしているのかといった情報はお持ちですか。

(事務局) とくに、そういったデータは持っていません。

(委員) 集めていただくことはできますか。

(事務局) それはできますが、そういった事例があるかは確認してみないとわかりません。

(委員) 中学校は 1 年生から 3 年生まで全て揃っているのが普通だし、それが当たり前だと思います。ちゃんと上級生と下級生の関係があるのが自然な中学校生活だと思います。

(事務局) 1 年生のいない中学校があったかはわかりませんが、教員の数 は 1 年生から 3 年生までのトータルのクラス数で決まるわけですし、現在でも 9 教科の先生をギリギリ確保できているといった状況です。1 年生が入らなくなってクラス数が減るとなると、教員配置の観点からも現実的ではないということです。

(議長) 学校運営が成り立たないですね。

(委員) 子どもが一人だけとかの学校がよくテレビで紹介されていますが、中学校では、そういうことはないわけですね。

(議長) ああいうのは、また特殊なケースですけどね。

(委員) 学区部会でまとまらなければ、検討協議会に戻すのもありといった意見が先ほどありましたが、それはどうなのでしょう。

(事務局) あくまでも、この部会で学区の方向性を出してもらいたいですし、部会で出た結論を検討協議会に諮って最終的に決定するという形をとりたいと思っています。

ちなみに検討協議会は 12 月 19 日の開催を予定しています。

(議長) 検討協議会で入間中を廃校にすることは決めたわけですが、今度の 12 月は、学区部会の検討状況の報告ということになるわけですか。

(事務局) 今日で学区が決まらなければ、中間報告ということになりますが、

実際のところ、今年度になってから一回も開いておりませんので、是非ここで開かせていただければと思っています。

(委員) この四つの案のうち、どれにするかを決めるのが学区部会なのか。

(議長) そうですよ。

(委員) 別に第5案目が出てもいいわけですよ。

(事務局) 委員の皆さんの合意があれば、そういう形でもかまいません。ただ、学校を新設するといったことは考えていません。

(委員) 学区が今日で決まらなければ、12月の検討協議会の後に、また学区部会が開かれることになると思うのですが、この部会はいつ解散になるのですか。

(事務局) 学区の方向性が出るまで、部会は開かせていただくことになりますが、そろそろ結論を出していただきたいと思っています。

(委員) この部会で学区を決めた後は、どうなるのですか。

(事務局) 部会で出された結論は、検討協議会に諮り、そこで了解を得て決定ということになります。その後、検討協議会で統合の時期を決めたいと考えています。

(委員) 統合の時期を決めるために、新たに部会を立ち上げることはないということですね。

(事務局) はい、統合の時期は検討協議会で決めます。

(委員) 学区部会以外に、新たに部会を立ち上げる予定は今後あるのですか。

(事務局) まだ決めていませんが、入間小の時は、通学路に関する部会を立ち上げて、通学のルートや安全対策を検討した経緯があります。



(委員) そういったスケジュール的なものを出していただいた方がいいと思います。この先こういう流れで進めていくというのがわかれば、私たち入間中としても、そういった決めるタイミングを踏まえたうえで意見を言えますので…。

(事務局) 今後、出させていただきたいと思います。

(議長) 他にご意見はありますか。

(委員) 今回選ばれている地域の代表の方以外にも出席してほしい自治会長さんがいるのですが、それは可能ですか。例えば、通う中学校が決まった場合、そちらの地域の自治会長さんにも出席してもらおうとか…。

(事務局) 自治会長さんに対しましては、入曽地区の自治会長会議などの場で今後も説明をさせていただく予定ですが、今のところ委員さんを増やす考えはありません。

(委員) 入間中の廃校は、お金がないからとか古いからとかいった単純な理由で決めたのではなく、総合的な観点から、みんなで真剣に議論した結果として導き出された結論です。入間中さんの気持ちはわかりますが、委員さん同士で真剣に議論して決めたことに対して、それを覆そうと、ああじゃない、こうじゃないと質問してくるわけですから、それに対して苛立つ委員さんが出てくるのは当然だと思います。

それと、子どものため、子どものためって言いますが、そういう人に限って口だけで何もやってない人が多いですよね。学校がなくなれば避難場所がなくなると言って騒ぐ人がいますが、防災訓練や避難訓練に参加していますか？と私はその人に聞きたいです。私たち自治会長は、そういったいろいろな行事などに参加していますし、そういった経験も踏まえたうえで、今回、統廃合の必要性ありとの結論を出したわけです。もっと大勢の意見を聴くべきだと言われますが、何だか私たち委員がいい加減に決めたと言われているようで、正直言って心外だし、憤慨しています。別に市からお金をもらってやっているわけじゃありませんし、市から強制されて言わされているということでもありません。敵役なんかやりたくないし、できることなら降ろしてもらいたいって思っていますけど、これはあくまでも自分自身で考えて、子ども達のためにはこの方がいいだろうと思って出した結論です。

入間中さんの言っていることは、とにかく入間中をなくすな！ですけど、最近は自治会でも長寿会の補助金などがどんどん市からカットされているような状況ですし、多少反発はしますけど、諸般の事情を考えれば、苦しいけど仕方ないって思っています。入間中さんが間違っただけを言っているとは思っていませんが、これからはもっと前向きに、どうやったら子ども達を幸せにできるのかという視点に立って考えていく必要があるのではないのでしょうか。そうしないと、いつまで経っても同じ話を繰り返すだけになると思います。

(事務局) この部会で学区の方向性を出してもらうわけですが、最終的には検討協議会が決めることになっているわけですから、この部会で出した結論はガチガチで動かせないというものでもないと思いますし、それでは部会の委員の皆さんも過度に責任を感じて、なかなか決断しにくい面が出てくると思います。この部会で、ある程度の方向性は示してもらいますが、先ほどの御狩場小区域の在校生の処遇に関する要望などは、付帯事項として上げて、検討協議会の方で判断してもらうということでもよろしいかと思います。

(議長) 最終的には検討協議会で決定することではありますが、やはり部会で出た方向性は尊重すべきものと考えていますので、検討協議会の中でいろいろ意見は出ると思いますが、これではおかしいということには基本的にはならないと思います。

それと、子ども達というのは、しっかり指導をしていけば、学校が変わることになっても、そういう役割を担っているということを理解してもらうことは可能だと思いますし、そうすれば誇りを持って学校を移っていただけるものと思っています。

(委員) どうやって、そんな役割といったものを説明するのですか。

(議長) それは大人の責任ですよ。

(委員) 市の財政ってことですか。

(議長) もちろん、そういったことも含めてです。血税を有効に使うことは一市民としての願いですし、そういったことも子ども達に認識してもらうのは大事なことです。

(委員) 狭山市って、本当にそんなにお金がないのでしょうか？二つの学校を統廃合するのに、新しく学校を建てて進めているところもありますよね。新しい学校に行けるのであれば、私たち入間中だって、いくらでもポジティブな意見は出せます。

(議長) それで市民のコンセンサスを得られると思いますか。

(委員) 得られますよ。だって、子どものことですよ。

(事務局) 狭山市は、やはり財政的に厳しい状況にあると考えています。支出に関していえば、とくに福祉に関する費用は年々増加していますし、抑えることがなかなか難しい類のものでもあります。税収も伸び悩んでいますし、今はある程度の基金がありますが、このままいけば、いずれはなくなってしまうというのが現状です。

(議長) 学校を新しく建てることについての議論は検討協議会でもやりましたが、学校を1校存続させるだけでも、ランニングコストなど多くの費用がかかります。入間中も長い年数が経っていますので、補修費などの費用が嵩みますし、設備的に劣る面も多々見受けられます。私は学校長として責任ある立場でやってきましたので、皆さんはあまりイメージしにくいかもしれませんが、入間中を統廃合することの必要性は正直強く感じています。

(委員) 私は南小の学校評議員をやっておりまして、校長先生ともお話しする機会があるのですが、入間小から来た子ども達が孤立したりしていませんかとお尋ねしましたところ、それどころか前よりも良くなって子ども達は結束していますよというお話でした。私としては一安心したのですが、お金のこと大事ですけど、主役はあくまで子ども達という原点に立ち返って考えていきたいですし、子ども達というのは、環境が変わっても、それなりに柔軟に対応できると考えています。

(議長) 学区がなかなか決まらないようですと、事務局から叩き台の案を出してもらいやり方もありますが、その辺は如何でしょうか。基本的には、皆さんで意見を出し合いながら決めていただきたいと思うのですが…。

(委員) 事務局からではなく、やはり私たち委員の間で意見を出し合いながら決めていくのがいいと思います。

(議長) わかりました。

いま四つの案が出ていますが、入間中さんとしては、どうでしょうか。

(委員) 正直どういうふうに発言していいのか、今すごく悩んでいます。みんなから吸い上げてきた意見を言っても、前向きじゃないとか、会議が進まないとか言われるし…。

(委員) でも、ここは学区の事を話し合う場ですし、吸い上げてこられたご意見は貴重なものだと思いますが、そもそも論になってしまうと、私たちとしても発言する立場にはないと思っていますので、ただ聞くだけになってしまうわけです。

(委員) それでしたら、一度検討協議会にもって行ってもらいたいと思います。毎回毎回、この部会で話すことではないって言われてしまうのでしたら、検討協議会の場で話すしかありませんので…。

(委員) 私は出ていなかったのですが、昨年度の検討協議会では、統廃合に反対する内容の意見は出なかったのですか？

(議長) そんなことはないですよ。

(委員) そういう議論があったうえで、入間中を廃校にすることが決まったわけですね。

(議長) はい。新しく学校を建てるべきとか、いろいろと意見は出ましたが、最終的には入間中の廃校ということで決定したわけです。

入間中さんとしては白紙に戻してほしいということだと思うのですが、それは、この部会で話し合うことではないと以前お伝えしたつもりです。昨年一年間かけて、検討協議会の皆さんが一生懸命論議した中で導き出した結論ですから、あらためて申し上げます、そのあたりは是非ご理解いただきたいと思います。

(委員) 人が変わったことで、また廃校反対ということで議論をやっていたのでは、切りがないですからね…。

(議長) あらためてお伺いしますが、学区に関して、当事者である入間中さんの意見としては、どうでしょうか。

(委員) 夜も歩いていただけるものと思っていましたし、議長さんもそういうふうに関心してくれていましたから、そういうことをしたうえで考えていただけるものと思っていました…。

(議長) そのことに関しては、まずは学区を決めてから、その後に細かい調査はしようということで、今みんなで決めたわけですので…。  
意見が出ないと進みませんので、他の皆さんからもご意見をいただきたいと思います。

(委員) 入間野中ですが、会長と話し合った中では、④案を推進したいと考えています。ただし、御狩場小区域にお住まいの入間野中の在校生については、選択制にしてみたいと思います。

(委員) 南小全体としての意見ということではありませんが、入間小で別れ別れになった子ども達のことを考えると、南小や入間中の子も達が全員入間野中に行く③案が良いと思います。

(委員) 入間中としての考えということではありませんが、四つの案の中にはないですけど、個人的には自由選択制にしてみたいと思っています。子どもをどの学校にやりたいかを、親に真剣に考えてもらって選んでもらうのが一番だと思います。

(委員) 入間小の事を考えれば、③案が良いと個人的には思います。

(委員) 先ほど入間野中さんから④案を推したいという話がありましたが、理由をお伺いしてもよろしいでしょうか。

(委員) やはり山王中も入間野中も適正規模になるということが一番の理由です。生徒数が増えれば、部活にしろ、何にしろ、教育面でより良い

効果が生まれると思いますし、授業に関しても、今は教員の人数が少ないので難しいですが、いずれは習熟度別指導を実施してもらいたいと思っています。今は、塾に通っているお子さんと通っていないお子さんとは、学力の差がとても大きいですから、習熟度別指導によって理解度の低い子ども達を救ってほしいと思っています。子ども達は別れてしまいますが、やはり教育環境を充実させるために、適正規模にすることが第一だと思いますので、④案が良いと考えています。

(委員) 御狩場小の総意ということではありませんが、御狩場小の子ども達が全員同じ中学に行けるようになればいいと思っていますので、②・③・④案のいずれかが良いと考えています。

それと、30周年記念行事の関係で、今まで御狩場小では保護者説明会を開催していただいていたのですが、今後なるべく早いうちに開催していただければと思っています。よろしくお願いします。

(委員) 三商や新水野から山王中に歩いて通うのは無理ですので、入間野中に通う③案が良いと思います。それと、学校選択制が良いと思います。

(委員) 実際に歩きましたが、やはり1時間近くかけて山王中まで通うのは難しいと思います。私としては③案が良いと思います。

(委員) 入間野小の場合は受け入れる側ですので、これといった意見は特にありません。入間中さん、南小さん、御狩場小さんの意見を尊重したいと思います。

(議長) 今日結論は出せないと思いますので、こういった意見が委員の皆さんから出たということで、今日のところはそれでよろしいでしょうか。

(事務局) はい、次回の部会では方向性を絞っていただければと思っております。

## (2) その他

(委員) 前回の会議でも話をさせていただきましたが、情報の周知や意見聴取などの方法について、事務局ではどういうことを検討されましたか。

(事務局) 南小学校に保護者向けのアンケートボックスを置かせてもらう方向で、校長先生と現在調整しています。

(委員) 事務局はいつも対応が遅いんですよね…。これからどんどん話が決まっちゃうわけですから、早く置いてください。

(議長) 代表として出席されている委員の皆さんにおかれましては、バックにたくさんの人たちがいるとは思いますが、全員の意見をまとめるといっても、結局は一人ひとりがいろんな意見を持っているわけですから、あまり抱え込まずに、もっと自由闊達に臆することなく意見交換してもらえればと思っています。

それと、こんな資料を事務局から出してほしいといったリクエストは何かありますか。

(委員) 先ほども話が出ましたが、今後の検討協議会の流れがわかるタイムスケジュール的なものがあればいいと思います。

(委員) 学区の見直し案の②・③・④案については、御狩場小区域の在校生が、中学校を移らずに卒業までそのまま残る場合の生徒数や学級数についても、示していただければと思います。

(委員) 35人学級を想定したケースで出していただくこともできますか。

(事務局) 文部科学省が平成22年に出した計画では、平成26年から平成28年にかけて段階的に中学校の35人学級を実現する案が示されていますので、その計画案に基づいて数字を出してみたいと思います。

## 4 閉 会

### 【配付資料】

- ◆ 第3回会議録
- ◆ 入曽地区中学校統廃合説明会報告（南小学校保護者）
- ◆ 想定通学路実地調査報告